

性感染症の報告数はこの10年間でほぼ半減した。ただし、15〜19歳の若者に限ると、09〜12年まで3000件を割り込んでいたクラミジア患者数が13年に再び3110件報告されるなど、再び増加しつつある。地方自治体が啓蒙力を入れたのは当然の成り行きだが、教育現場の試行錯誤が思わぬハレーションを招いた。

キラキラ輝くデザインを表紙は一見、若者向けのファッションミニコミ誌かと思えるが、実は高校生や大学生向けに作られた性感染症予防啓蒙のための小冊子だ。この全32冊の冊子を高校生に配った山梨県で、ちょっとした騒動が起きている。

タイトルは「コミュニケーションが防ぐAIDS&STI」。STIとはセックスやキス、ベッティングなどの性的な行為で起こる感染症を指す用語である。

【騒動追跡】

「まじろ」とアドバイスして話題になった医師だ。全国の自治体などがこの冊子を採用しているといい、例えば山梨県ではこの4年間、夏休み前の高校1年生全員に配布した。

高校生に見抜かれる「媚び」

受け取った甲府市内の女子高校生がいう。「くっついたり別れたりを繰り返すチャライ子たちが登場している。彼らなら性病にかかって当たり前、私たち普通の生徒には関係ないと思ってしまいます」



高校生にしても会話が幼い(左は表紙、右は内容の一部)

「一方、高校教諭として20年近く性教育を行なってきた私立高校講師の丸山慶喜氏はこんな見方をしている。「高校生をバカにしているのではないのでしょうか。彼らは大人が意図をもってわざわざ若者っぽい言葉遣いで作ったものだということに敏感に察知します。性感染症というセンシティブな話題だからといって、親しみを持たせようという意図がミエミエです。子供はすぐ見抜いて敬遠してしまいます」

高校生に配られた 性病パンフレット 「バカにしすぎ」

「たどえ性に奔放な若者だったとしても、大人が本気で避妊や性感染症を心配すれば聞いてくれる。子供に媚びる前に、段階を踏んだ性教育を小学生からしなくてはいいないと考えます」

若者に興味を持たせようと苦心したのだろうか。医学的解説の合間には、大学生2人、高校生2人の男女4人グループがやり取りしたという設定のメール文面が掲載されているのだが、そのやりとりがあまりにも突飛なのである。

たトで大論争

「前略」アイのSTIって受けるの？ (前略)アイのSTIって受けるの？ オレにもうつってるとやっちゃったんだったら性病になってるはずだから病院で調べてもらったほうがいいって。まじしよけるよー。だって、親とかにばれたら、白い目でみられそうじゃん？ どうしたらいいかなあ？」